

(仮称) 富士宮市立郷土史博物館 建設候補地説明会

次第

- 1 (仮称) 富士宮市立郷土史博物館の整備について
- 2 博物館建設候補地の決定について
- 3 駅前交流センターきらら駐車場について
- 4 質疑

1 (仮称) 富士宮市立郷土史博物館の整備について

○基本理念を「富士宮市の歴史・文化を学び未来を拓く、人づくりの拠点」として、富士宮市の歴史文化を市民が学ぶことで郷土愛の醸成を図るとともに、次世代に継承していくため、資料の収集・保存・展示や調査研究を行い、また、市民等が行う学習・調査研究等の拠点となる(仮称)郷土史博物館の整備を進めている。

現状：歴史文化資源を保存するための整った環境がない

展示など、市民が歴史文化資源に触れる機会が限られる

保存場所の「埋蔵文化財センター」が浸水想定区域にある

→博物館の必要性

R3 基本構想策定 目指す博物館の全体像(基本理念、博物館の役割、方針)を示す
※検討が必要な内容については、基本計画で検討して示すこととした。

R4 基本構想について市民説明会(全13回)

R5 郷土資料館の展示などで文化財の価値を伝える

R6 博物館整備の方向性の調整

→金額を抑えるために既存施設の活用と博物館規模のコンパクト化

→少ない面積でも設置が可能

→市街地の市所有地も候補地として可

R7 基本計画策定

※じっくり丁寧に進めるために、説明会などを開催

・基本構想等について市民説明会(全6回)

・郷土資料館から博物館を考えるフォーラム

・基本計画策定のための市民ワークショップ(全2回)

・市民博物館ツアー(埋蔵文化財センターとかぐや姫ミュージアム)

基本計画の内容：施設整備計画、立地、収蔵計画、展示計画、管理運営計画、事業活動計画、事業推進計画、ネットワーク計画等

◎計画の中に、博物館整備場所を位置づける。

◎施設面積 2,240 m²

◎施設構成

・収集保存部門 収蔵庫など

・調査研究部門 調査研究室、資料整理室など

・展示公開部門 展示室など

・教育普及部門 講座室など

・埋蔵文化財部門 考古資料整理室など

・利用者サービス・交流機能

インフォメーション、休憩・飲食スペース、ショップなど

・管理運営部門 事務室など

○基本計画は2月に素案をまとめ、3～4月ころ市民説明会を開催する予定。

2 博物館建設候補地の決定について

(仮称)富士宮市立郷土史博物館の整備候補地は「富士宮駅前交流センターきらら駐車場」とした

1 方向性

- 目指す博物館の姿である基本理念「富士宮市の歴史・文化を学び未来を拓く、人づくりの拠点」と「市民とともにつくる博物館」としての役割を果たすことのできる場所であること。
- 費用を抑えるために、市の所有地で検討する。
- 基本計画策定委員会、市民説明会、ワークショップ、博物館ツアーなどでいただいた意見をもとに市が立地を決定する。

2 検討の流れ

- (1) 市民説明会、ワークショップ、博物館ツアーなどの意見を基本計画策定委員会で報告し、委員の意見をいただく。
- (2) 委員会の検討の中で、郊外型と都市型について議論が必要であるとの意見があったため、郊外型か都市型かの意見をいただく。
- (3) 郊外型・都市型の選択
→(1)(2)の意見、市としての考え方から都市型を進めることとする。
都市型選定のポイント：別紙1
- (4) 都市型の2つの候補地（きらら駐車場、神田川観光駐車場）から「きらら駐車場」を候補地とする。
候補地選定のポイント：別紙2

「都市型」選定のポイント

基本理念の「人づくりの拠点」、役割としての「人々が気軽に訪れ、憩い、交流し、活動を行う」点、「市内を巡るきっかけ」として、交通アクセスなどの利便性が高い点が重要である。他の点においても利点が多い。

・施設への交通アクセス

人づくりの拠点として、市民が行きやすいこと。

特に、小中学生、高校生が行きやすい。子どもだけでも行ける場所

・用地確保

収蔵について、別に既存施設を活用することでコンパクトな施設が可能

複層化により限られた場所でも整備が可能

・施設計画

費用面からもコンパクト化を進める。

駐車場については、必要台数を精査し、混雑時に別の駐車場が確保できるようにする。

・集客性・回遊促進効果

まちなかへの回遊性が期待できる。

・まちづくりへの効果

商店街や公共施設と連携した効果が期待できる。

まちなかの賑わい創出

・文化財保存施設としての災害リスク

ハザードマップに配慮した建築構造等とすることで対応可

候補地選定のポイント

- ・アクセス性の高さ
- ・駅前ににぎわい創出、まちなかの回遊性向上
- ・商店街との連携

などの点から基本理念「富士宮市の歴史・文化を学び未来を拓く、人づくりの拠点」として博物館の立地に最もふさわしい場所は、「駅前交流センターきらら駐車場」と考えられる。

■誰もが利用しやすい “アクセスの良さ”

- ・駅前のため、徒歩・バス・電車でも来館しやすい
 - ・子どもや高齢者、市外の方もアクセスしやすい
 - ・学びを支える「人づくりの拠点」の理念に最も合う場所
- 博物館は「来て学ぶ場所」であり、行きやすい場所にあるほど参加しやすい。

■駅前ににぎわいを生み出す

- ・展示・イベントで定期的な人の流れをつくる
 - ・若い世代や家族連れが街にくる機会が増加
 - ・富士山本宮浅間大社などへ徒歩でめぐること回遊が生まれる。
- 「富士宮市世界遺産のまちづくり整備基本構想」における「にぎわい創出ゾーン」の東側エリア・商店街へ回遊促進効果が期待できる。
- ・市外からの観光客も訪れやすく、周辺の観光動線ともつながる。
- 大型バスの観光客は、駅前通りで降りてもらい、バスは神田川観光駐車場で待機。観光客には街を巡りながら駐車場に歩いてもらうことを想定。

■商店街との連携がしやすい

- ・商店街が徒歩圏内
- ・来館者が自然と商店街に足を運びやすい
- ・商店街と連携した企画が可能
 - まち歩きツアー
 - スタンプラリー
 - 博物館テーマに合わせたフェア
 - サテライト展示 など

※神田川観光駐車場は

- ・まちなかの観光バスの駐車場（20台分）としての利用。（大型バスの駐車場は、大社のほかには、神田川観光駐車場しかない。）
- ・大社、世界遺産センター、博物館と縦軸の強化にはなるが、商店街等横軸への効果が薄い
- ・浸水や液状化リスクのある場所に隣接している

3 駅前交流センターきらら駐車場について

- ・きらら駐車場 (3,000 m²、106 台) に博物館を建てると、博物館には 2,240 m² 必要であり、約 750 m² を 3 階建てとすることで建設できる。敷地の 3 分の 1、およそ 1000 m²、35 台分の敷地を使用することとした場合、駐車場は 2,000 m²、70 台分残る計算となる。通路や障がい者用駐車場等も考慮すると、およそ 60 台は残る。
- ・きらら駐車場の利用状況は、通常 30~40 台程度 (きらら以外の周辺の利用者含む) であり、これに博物館利用者分を 20 台程度確保しても 60 台あれば足りる計算となる。
- ・しかし、60 台以上利用される時間帯もあり、特に初詣や宮おどり、きららまつりの日など周辺でイベントがある日は一時的に満車になることもあることを確認している。
- ・まちなかを調査し、駐車場として利用している場所はおおよそ把握したが、「月決め駐車場」が多い状況を確認している。

※出入は、駅前通りからを想定

◎きらら駐車場の利用状況 (令和 6 年度)

・ 満車の日 年間 3 日

関係するイベント 十六市、初詣

関係するきらら使用内容 きららまつり

・ 60 台以上在庫の時間帯がある日 年間 79 日

関係するイベント 御神火まつり、宮おどり、富士宮まつり、十六市、初詣

関係するきらら使用内容 きららまつり、集会室使用等

半径約 250 m にある民間駐車場

コインパーキング 6 か所 約 70 台

月極駐車場 34 か所 (10 台以上の規模) 約 400 台以上

→混雑時の代替駐車場を確保する必要がある。

◎現状、代替駐車場が確保できていない状況であるが、今後、具体的な対応策を講じる。

対策検討

対策案①：周辺の既存駐車場の活用・提携

- ・駅前周辺のコインパーキングなどとの提携
- ・イベント時の「協力駐車場」設定
- ・市として案内表示・Web 案内を強化

対策案②：イベント時は臨時駐車場を確保する

- ・民有地の一時借用 (例：休日のみの活用)

対策案③：混雑が予想される日は、事前に情報提供

- ・イベント開催日を分かりやすく告知
- ・駐車場の混雑予想を前もって周知
- ・公共交通利用の呼びかけ、ルート案内

基本計画の施設整備計画により 必要な面積は2,240㎡

例えば、750㎡で3階建てにすると、2,250㎡となり、ほぼ同じ面積となる

